

# 令和4年度 組織目標（部局目標）

部局名 土木交通部



| NO.  | 項目名            |
|--|----------------|
| 1  | 未来の滋賀を支える地域づくり |
| 背景・課題（取り組むべき理由）  |                |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・土木交通行政における今日の課題は、「防災・減災対策」、「社会インフラの老朽化対策」、「生活や産業を支える県土基盤の整備」の3点にあり、No. 2以降の項目を重点的に進めていく必要がある。</li> <li>・このためには、令和4年度当初予算と令和3年度国補正予算に伴う繰越予算を組み合わせて、切れ目なく事業執行を図り、早期に事業効果を発現させることが必要である。</li> <li>・あわせて、建設業のDXの推進や担い手確保・育成に向けた取組を行うことで、「地域の守り手」である建設産業を活性化することが必要である。</li> <li>・また、これまで公共事業の推進にあたり、環境への配慮や環境負荷の低減に重点を置いて取り組んできたが、自然環境を保全するといった考え方から更に進み、自然環境が持つ多様な機能を活かした「グリーンインフラ」の視点を広く導入していく必要がある。</li> </ul>  |                |
| 目標（今年度末に目指す状態）   |                |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>① 公共事業の計画的な事業執行と建設DXの推進             <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末工事等契約率 100%に向けた上半期契約 <u>7割</u></li> <li>・完了検査におけるペーパーレス化 電子検査実施率 <u>25%</u></li> <li>・ICT活用工事等の遠隔臨場実施回数 土木 <u>500回</u>、営繕 <u>50回</u></li> </ul> </li> <li>② 建設産業の活性化・担い手の確保             <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学・高校での出前授業の実施 <u>10回</u></li> <li>・幅広い層に建設産業の魅力を伝える動画の発信 累計視聴回数 <u>10,000回</u></li> </ul> </li> <li>③ グリーンインフラの視点を取り入れた事業の推進             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「滋賀県が取り組むグリーンインフラ事例集」の作成</li> </ul> </li> </ul>  |                |
| 取組内容（事業内容）   |                |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>① 公共事業の計画的な事業執行と建設DXの推進             <ul style="list-style-type: none"> <li>・建設現場の遠隔臨場やリモートによる設計協議等の推進、監督補助等のアウトソーシングの活用、AIを活用した積算業務の効率化、組織を超えた職員の応援体制の構築等により、業務の効率化と円滑な執行を図る。</li> <li>・電子検査については、建設業界に対する研修や、監督職員向けのマニュアルを作成する等により、令和4年度完了工事のうち、25%以上の工事の完了検査において実施する。</li> <li>・営繕工事にICTを活用するため、BIM※を導入するとともに、WEB会議や遠隔臨場の試行により営繕工事における課題を整理し、「(仮称)遠隔臨場に関する実施要領(営繕工事版)」を策定する。</li> </ul> <p>※BIM(ビルディング・インフォメーション・モデリング)とは、建築物のライフサイクルにおいて、材料の規格や更新履歴などの管理情報を3次元モデルにより一元管理することで効率化・高度化を図ること。</p> </li> <li>② 建設産業の活性化・担い手の確保             <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の担い手となる中学、高校の生徒に向け出前授業を実施し、建設産業の役割やものづくりの楽しさなどを伝えていく。</li> <li>・若い世代や女性など、これまで馴染みのなかった層への情報発信を行うため、SNSを用いて建設業の魅力アップ動画の配信を行う。</li> </ul> </li> <li>③ グリーンインフラの視点を取り入れた事業の推進             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「(仮称)滋賀のグリーンインフラ取組方針」の策定に向けて、関係部局による庁内連絡会を立ち上げ情報共有や意見交換を行い、グリーンインフラの定義を明確化し、「滋賀県が取り組むグリーンインフラ事例集」をとりまとめる。</li> </ul> </li> </ul> |                |

# 令和4年度 組織目標（部局目標）

部局名 土木交通部



| NO.   | 項目名            |
|---|----------------|
| 2   | 安全・安心を支える地域づくり |
| 背景・課題（取り組むべき理由）   |                |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・気候変動の影響により激甚化・頻発化する自然災害に対応し、県民のいのちと暮らしを守るため、河川整備や土砂災害防止施設整備の推進と合わせて、国が進める「流域治水」の取組と連携を図り、安全な住まい方への転換といった水害に強い地域づくりを推進するなど、ハード・ソフト一体となった治水対策を進めていく必要がある。</li> <li>・昨年度の大雪では車両スタックによる高速道路の通行止めで、一般道の交通量が増加し、大渋滞となったことから、大雪時における道路交通対策を早急に進めていく必要がある。</li> <li>・今後加速度的に進行するインフラの老朽化から、県民のいのちと財産を守り、社会の重要な機能を維持するため、「予防保全型」のインフラメンテナンスへの転換が必要である。</li> </ul>  |                |
| 目標（今年度末に目指す状態）  |                |
| <p>① 災害からいのちと暮らしを守る防災対策の加速化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・河川整備完了延長 <u>2.0 km</u>、工事着手延長 <u>5.0 km</u></li> <li>・土砂災害防止施設 <u>整備完了 7箇所</u></li> <li>・気候変動による降雨量変化を踏まえた治水計画のあり方の策定</li> <li>・浸水警戒区域 <u>区域指定 9地区</u> ・<u>ダム流入予測システムの高度化</u></li> <li>・大雪時における道路情報収集・発信体制の強化<br/><u>路上カメラの設置 15台、多様なツールを用いた災害時の情報発信</u></li> </ul> <p>② 予防保全型インフラメンテナンスの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・橋梁修繕工事完了 <u>20橋</u></li> </ul>  |                |
| 取組内容（事業内容）  |                |
| <p>① 災害からいのちと暮らしを守る防災対策の加速化</p> <p>【河川整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大戸川（大津市）、蛇砂川（近江八幡市）バイパス河川への通水、日野川（近江八幡市、野洲市）、安曇川（高島市） 等</li> </ul> <p>【土砂災害防止施設整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・[砂防] 北谷川（大津市）、アコ谷（高島市） 等 [急傾斜] 相撲庭地区（長浜市） 等</li> </ul> <p>【気候変動による降雨量変化を踏まえた治水計画のあり方の策定】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気候変動による降雨量変化を踏まえた治水計画のあり方について、学識者からなる「淡海の川づくり検討委員会」に諮り、策定する。</li> </ul> <p>【浸水警戒区域指定】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浸水警戒区域の指定を迅速に行うため、地域の特性等に応じ、オープンハウス方式を取り入れるなど、手法を工夫して取り組む。</li> </ul> <p>【ダム流入予測システムの高度化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異常降雨に備え、より安全なダム操作に資するため、精緻な降雨予測データを用いてダム流入予測システムを高度化する。</li> </ul> <p>【大雪時における道路情報収集・発信体制の強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の大雪で渋滞が発生した箇所やスタックのおそれのある箇所にカメラを設置し、災害時に多様なツールを利用した情報発信を行うことで道路利用者に広域迂回や外出自粛を促す。</li> </ul> <p>② 予防保全型インフラメンテナンスの推進</p> <p>【橋梁長寿命化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高宮橋（彦根市）、小舟木橋（近江八幡市）、花園橋（栗東市） 等</li> </ul> |                |

# 令和4年度 組織目標（部局目標）

部局名 土木交通部



| NO.   | 項目名            |
|---|----------------|
| 3   | 生活や産業を支える地域づくり |
| 背景・課題（取り組むべき理由）   |                |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・人やモノの円滑な移動を確保し、県民の生活や産業を支えるための道路ネットワークが必要である。</li> <li>・通学路や園児等の移動経路の歩道整備をはじめ、誰もが安全・安心に利用できる道路の安全対策を着実に進めることが必要である。</li> <li>・利用者にとって使いやすく、「乗ってみたいくなる」「もう一度利用したくなる」ような、利便性が高く地域の特性に応じた交通ネットワークが必要である。</li> </ul>  |                |
| 目標（今年度末に目指す状態）  |                |
| <p>① 道路ネットワーク整備の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（仮称）道路整備アクションプログラム 2023 策定</li> <li>・道路開通延長 10.0 km</li> <li>・名神名阪連絡道路 概略ルート検討</li> <li>・歩道整備延長 2.5km</li> </ul> <p>② 地域公共交通の維持・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「滋賀交通ビジョン」の見直し 「滋賀地域交通ビジョン」骨子案を策定</li> <li>・公共交通ネットワークの構築、利用促進<br/> <u>鉄道等の利用促進に向けた駅と工業団地間のシャトルバス運行実証 I エリア</u><br/> <u>県内すべての鉄道・バスにおける MaaS レベル I（情報の統合）の実現</u></li> </ul>   |                |
| 取組内容（事業内容）  |                |
| <p>① 道路ネットワーク整備の推進</p> <p>【（仮称）道路整備アクションプログラム 2023】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度に策定した道路整備マスタープラン（第3次）の方針に基づき、将来10年間の具体的な実行計画である「（仮称）道路整備アクションプログラム 2023」を、有識者や県民で構成される地域ワーキングにおいて議論しながら策定する。</li> </ul> <p>【道路整備（開通予定）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大津信楽線(大津市)、川合千田線(長浜市)、甲津畑山上線(東近江市) 等</li> </ul> <p>【名神名阪連絡道路】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重要物流道路の指定(令和4年4月)を受け、概略ルートの具体的な検討を進める。</li> </ul> <p>【歩道整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国道303号(高島市)、大津守山近江八幡線(草津市)、竜王石部線(湖南市) 等</li> </ul> <p>② 地域公共交通の維持・強化</p> <p>【滋賀交通ビジョンの見直し】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「滋賀交通ビジョン」について、県民の日々の生活を支える「地域交通」に特に焦点を当てた「滋賀地域交通ビジョン」への見直し（令和5年度を予定）に向け、令和4年度に骨子案を策定する。</li> </ul> <p>【公共交通ネットワークの構築、利用促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道等の更なる利用促進として、通勤手段の自家用車からの転換に向けた駅と工業団地間のシャトルバス運行実証を行うとともに、観光二次交通の一つとしてサイクル利用の促進等に取り組む。</li> <li>・また、県内すべての鉄道とバスの時刻表や運賃等をウェブ上で検索可能とすることで、MaaS レベル I（マルチモード移動検索、運賃情報等の情報の統合）を実現し、公共交通の利便性を向上する。</li> </ul> |                |

# 令和4年度 組織目標（部局目標）



部局名 土木交通部

| NO.   | 項目名               |
|---|-------------------|
| 4   | 魅力のある暮らしを支える地域づくり |
| 背景・課題（取り組むべき理由）   |                   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・近年、都市を取り巻く環境は大きく変化し、人口減少、高齢化、市街地拡散、自然災害の激甚化・頻発化、コロナ禍を契機とした変化などへの対応が求められる中、安全・安心な生活や経済活動を支えるため、持続可能で魅力のある誰もが暮らしやすい地域づくりの推進が必要である。</li> <li>・世帯減少による空き家の増加が懸念される中、住環境の維持、改善を図るため、空き家の発生予防、既存住宅の流通促進、特定空き家の解体支援の取組が必要である。</li> <li>・地域の魅力を活かした観光・地域経済の振興や健康なまちづくりのため、ビワイチをはじめとした自転車利用環境の整備や都市公園の質・利便性向上が必要である。</li> </ul>  |                   |
| 目標（今年度末に目指す状態）  |                   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>① 都市公園の活性化               <ul style="list-style-type: none"> <li>・民間活力の導入に向けた検討調査 <u>2公園</u></li> </ul> </li> <li>② 空き家対策の推進               <ul style="list-style-type: none"> <li>・建物劣化調査補助件数 <u>15件</u></li> <li>・空き家バンクによる売買成約件数 <u>100件</u></li> </ul> </li> <li>③ 「ビワイチ」の整備推進               <ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車通行空間整備延長 <u>低速コース 17km 完成</u> <u>上級コース 3.5km 完成</u></li> </ul> </li> </ul>   |                   |
| 取組内容（事業内容）  |                   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>① 都市公園の活性化               <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に Park-PFI の事業者が決定した 2 公園（びわこ文化公園、びわこ地球市民の森）の事業者が設置する収益施設（飲食施設等）について、年度内の運用開始に向け、事業者の進捗管理を着実に進行。</li> <li>・2公園（湖岸緑地、奥びわスポーツの森）の、民間活力導入のニーズや適地等についてサウンディング調査を行い、年度末までに Park-PFI 等の導入可能性を把握する。</li> </ul> </li> <li>② 空き家対策の推進               <ul style="list-style-type: none"> <li>・買主が安心して既存住宅の購入判断ができるよう、専門家による建物調査を支援する。</li> <li>・空き家バンク登録物件に入居する若年層等へのリフォーム支援や空き家の掘り起こしといった流通を促進する市町への支援を行う。</li> </ul> </li> <li>③ 「ビワイチ」の整備推進               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ナショナルサイクルルートに指定されている「低速コース」において、自転車歩行者専用道路(10km)や青矢羽根(7km)の整備を完了させる。</li> <li>・「上級コース」において、サイクリストとドライバー双方の安全性・快適性を確保するため、自転車通行帯(3.5km)の整備を推進する。</li> <li>・ビワイチ推進条例の趣旨に基づき、サイクリストの利便向上のため、道の駅（湖北みずどりステーションなど）におけるトイレ改修、サイクルサポートステーションの案内看板の充実など道路環境の整備を図る。</li> </ul> </li> </ul> |                   |

# 令和4年度 組織目標（部局目標）

部局名 土木交通部



| NO.  | 項目名                             |
|--|---------------------------------|
| 5  | CO <sub>2</sub> ネットゼロを推進する地域づくり |
| 背景・課題（取り組むべき理由）  |                                 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・建築物のライフサイクル全体におけるCO<sub>2</sub>排出量の削減を図るため、県有施設における更なる省エネルギー・再生可能エネルギー導入の推進が必要である。</li> <li>・自然環境と調和するCO<sub>2</sub>を排出しない地域づくりのため、自動車から排出される温室効果ガスの削減に寄与する、人や物の円滑な移動や交流の促進が必要である。</li> <li>・持続可能な産業や社会を構築するため、気候変動への適応策として、土砂災害対策施設の整備や流域治水の取組等の推進が必要である。</li> </ul>  |                                 |
| 目標（今年度末に目指す状態）   |                                 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>① 県有施設の省エネルギー化の推進               <ul style="list-style-type: none"> <li>・県営住宅の建替による省エネの推進 <u>2団地</u></li> <li>・断熱性・遮熱性の高い部材やエネルギー効率の高い機器等の選定 <u>25件</u></li> </ul> </li> <li>② 人や物の円滑な移動や交流の促進               <ul style="list-style-type: none"> <li>・道の駅におけるEV充電施設の充実 <u>新規3箇所(累計19箇所)</u></li> <li>・道路開通延長 <u>10.0 km</u>（再掲）</li> <li>・公共交通ネットワークの構築、利用促進<br/> <u>鉄道等の利用促進に向けた駅と工業団地間のシャトルバス運行実証 1エリア</u>（再掲）<br/> <u>県内すべての鉄道・バスにおけるMaaSレベル1（情報の統合）の実現</u>（再掲）</li> </ul> </li> <li>③ 自然災害への対応               <ul style="list-style-type: none"> <li>・河川整備完了延長 <u>2.0 km</u>、工事着手延長 <u>5.0 km</u>（再掲）</li> <li>・土砂災害防止施設 <u>整備完了 7箇所</u>（再掲）</li> <li>・気候変動による降雨量変化を踏まえた治水計画のあり方の策定（再掲）</li> <li>・浸水警戒区域 <u>区域指定 9地区</u>（再掲） ・<u>ダム流入予測システムの高度化</u>（再掲）</li> </ul> </li> </ul> |                                 |
| 取組内容（事業内容）   |                                 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>① 県有施設の省エネルギー化の推進               <ul style="list-style-type: none"> <li>・高断熱仕様や太陽光発電設備の導入などにより省エネの推進を図るとともに県産木材を活用した木造建築に取り組む。</li> <li>・営繕工事やその設計時において、CO<sub>2</sub>削減に向けた断熱性や遮熱性の高い部材、エネルギー効率の高い機器等を選定する。</li> </ul> </li> <li>② 人や物の円滑な移動や交流の促進               <ul style="list-style-type: none"> <li>【道路整備（開通予定）】                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・大津信楽線(大津市)、川合千田線(長浜市)、甲津畑山上線(東近江市) 等</li> </ul> </li> <li>【公共交通ネットワークの構築、利用促進】                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道等の更なる利用促進として、通勤手段の自家用車からの転換に向けた駅と工業団地間のシャトルバス運行実証を行うとともに、観光二次交通の一つとしてサイクル利用の促進等に取り組む。</li> <li>・また、県内すべての鉄道とバスの時刻表や運賃等をウェブ上で検索可能とすることで、MaaS レベル1（マルチモード移動検索、運賃情報等の情報の統合）を実現し、公共交通の利便性を向上する。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>                        |                                 |

### ③ 自然災害への対応

#### 【河川整備】

- ・大戸川（大津市）、蛇砂川（近江八幡市）バイパス河川への通水、日野川（近江八幡市、野洲市）、安曇川（高島市） 等

#### 【土砂災害防止施設整備】

- ・[砂防] 北谷川（大津市）、アコ谷（高島市） 等 [急傾斜] 相撲庭地区（長浜市） 等

#### 【気候変動による降雨量変化を踏まえた治水計画のあり方の策定】

- ・気候変動による降雨量変化を踏まえた治水計画のあり方について、学識者からなる「淡海の川づくり検討委員会」に諮り、策定する。

#### 【浸水警戒区域指定】

- ・浸水警戒区域の指定を迅速に行うため、地域の特性等に応じ、オープンハウス方式を取り入れるなど、手法を工夫して取り組む。

#### 【ダム流入予測システムの高度化】

- ・異常降雨に備え、より安全なダム操作に資するため、精緻な降雨予測データを用いてダム流入予測システムを高度化する。